保存版

諫早市 洪水ハザードマップ

Isahaya City Flood Hazard Map

本明川＆半造川

本明川は大雨で氾濫する!?

ニュースで目にする自然災害。
「これが自分の街だったら…」
もしも今、諫早市で自然災害が発生したら、
自分と家族の命を守れますか?

いっしょに備えよう

諫早市洪水ハザードマップ
防災ナビゲーター

早子ちゃん
諫早市で暮らす5才の女の子。正義感が強く、マルチーズ博士と防災について勉強中。大人顔負けの行動力で大切な家族を守る!

マルチーズ博士
早子ちゃんの家で飼っている老犬のマルチーズ。警察犬を夢見ていたので防災の知識が豊富。大雨が近づくと白い毛がクルクルに!

諫早市の地形の特徴

本明川・半造川
- 河川の長さが短い
- 勾配が急
- 市街中心部を流れる
- 上流で降った雨が一気に下流まで流れる

五家原岳
- 傾斜が急で険しい山々
- 雨雲が発達しやすい

↓

集中豪雨が発生しやすい

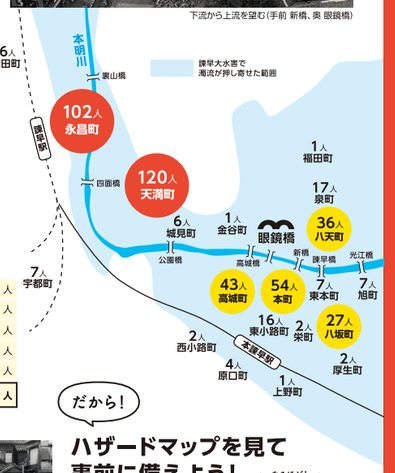
諫早大水害の歴史

諫早は昔から豪雨災害による被害が絶えません。
昭和32年7月の「諫早大水害」。
私たちのふるさとは、
かつてない被害に見舞われました。

死者・行方不明者数
630人

下流から上流を望む(手前 新橋、奥 眼鏡橋)

忍び寄る水腐(旭町)



流された大型バス(永昌町)

歴史を風化してはならない!

諫早市における町別の死者・行方不明者数

旧諫早市	諫早市街地	455人
	本明川上流域	44人
	その他地域	10人
	旅行者	30人
	森山町・高来町・小長井町	91人
現 諫早市(計)		630人

だから!

ハザードマップを見て事前に備えよう!

なるほど!

自然災害は、ある日突然発生します。今までの水害の歴史を忘れず、普段から防災に関心を持ちましょう。このハザードマップでは、基本的な防災への備えや知識を紹介します。もしもの時のために事前に備え、被害を最小限に抑えましょう。

諫早市では、「土砂災害」や「ため池」の危険をお知らせするための地図を作成し、市役所などで配布しています。

備えておこう

家族や大切な人たちの情報を記入しよう

住所	集合場所・避難所(所在地) 目印があれば書いておこう	避難先までの道順 いくつかあると安心
電話番号 / 浸水深 m	電話番号	移動時間 分

名前	携帯電話番号	生年月日	血液型	日中の居場所(所在地)	電話番号	浸水深	近くの避難所	移動時間
		年 月 日	型			m		分
		年 月 日	型			m		分
		年 月 日	型			m		分
		年 月 日	型			m		分

非常持出品の準備

避難した際に当面必要となる最小限の物です。これらに加え、自分にとって必要な物をリュックなどに入れます。玄関の近くや寝室などに配置しておき、緊急時に持ち出しましょう。

- 食料品: □飲料水 □非常食
- 衣類など: □下着・上着 □タオル □洗面用具
- 貴重品: □現金 □預金通帳 □印鑑
- 安全対策: □常備薬
- 日用品: □雨具 □ヘルメット □携帯ラジオ □懐中電灯
- その他: □予備電池
- 乳幼児: □粉ミルク □ほ乳瓶 □離乳食 □紙おむつ
- 高齢者: □流動食 □入れ歯
- ペット: □ペットフード □トイレ用品

避難情報の伝達方法

様々な手段で、住民のみなさんに避難情報を伝達します。

長崎県・長崎地方気象台 → 諫早市 → 防災行政無線 / ラジオ・エフエム諫早 / 諫早市防災メール / テレビ・諫早ケーブルテレビ / 諫早市ホームページ・Facebook / 広報車 / 消防団 → 住民のみなさん

防災行政無線
気象情報と避難情報をお知らせします。
テレビ、ラジオ、電話でも内容を確認できます
NBCテレビ・いさはやケーブルテレビ
エフエム諫早 レインボーFM 77.1Mhz
電話 0120-419-009

諫早市防災メール 登録制
諫早市に関する防災情報をメールでお届けします。
登録方法は2種類
① 右のQRコードを読みとり、登録する
② 右のメールアドレスに空メールを送る その後返信されるメールにて登録する
※携帯電話の会社毎でQRコードが異なります
docomo au softbank
memreg@city.isahaya.nagasaki.jp

困ったときの対応・連絡先

地域の消防・警察 諫早消防署 0957-22-0119 / 諫早警察署 0957-22-0110 / 県央地域広域市町村圏組合消防本部(通) 0957-24-6500

逃げ遅れた	あわてず2階以上に移動する → 消防119に電話する → 救助を待つ
自力で避難できない	市役所・支所・出張所・自治会長・自主防災組織・民生児童委員・近所の人・消防団に支援を要請する
大けがをした	応急処置をする → 消防119に電話する → 救助を待つ
停電になった	電源・コンセントを切る → 九州電力 大村営業所 0120-986-403に電話する

消防(災害・救急)119
警察(事件・事故)110
災害用伝言ダイヤル171
災害用伝言板Web171
https://www.web171.jp
インターネットを利用して被災地にいる方の安否確認ができる伝言板です。

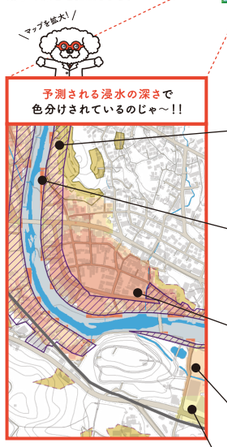
諫早市洪水ハザードマップ 作成:平成31年(2019年)2月 諫早市総務部総務課 TEL 0957-22-1500(代表) FAX 0957-24-3270

準備編 1 ハザードマップを見る

今いる場所で想定される浸水の深さを知ろう

あなたの居場所の浸水は何m?

裏面のマップは、洪水が起きた時の被害予測地図(ハザードマップ)です。普段過ごしている場所で想定される浸水の深さを確認しよう。



アンダーパスに注意!
アンダーパスとは、交差する鉄道や道路などの下を通過するため、周辺の地面よりも低くなっている道路のことです。地形的に雨水が集中しやすい構造のため、大雨・洪水時に自動車で侵入すると危険です。

家屋倒壊等氾濫想定区域

河川沿いは要注意!
洪水時に家屋が倒壊するような激しい氾濫が発生するおそれが高いエリア

予測される浸水の深さ

5m以上	2階屋根以上が浸水
3~5m	2階屋根まで浸水
0.5~3m	2階床下まで浸水 (腰上まで浸水している場合…歩行は危険! 車が浮く流される)
0.5m未満	1階床下まで浸水 (大人の膝下くらい 車から退出!)

2 正しい避難行動を知る

最寄りの避難場所を確認し、避難方法を決めよう

どこにどうやって避難する?

浸水の深さによって避難方法が異なります。緊急時にあわてないために、事前に最寄りの避難場所と徒歩での所要時間を知り、避難方法を決めましょう。

車での避難は控える
避難は徒歩が原則!
(お年寄り・体の不自由な方など)車での避難が必要な人は早めに避難開始!

緊急避難場所まで歩くのにかかる時間を計算しよう
500m(平地)
歩くのにかかる時間※目安
約6分 男性
約8分 女性
約10分 高齢者

必ず早急に避難

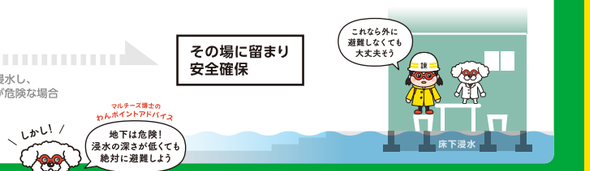
緊急避難場所・高台の道路・空地など
浸水しない安全な場所へ

時間と安全な避難経路が確保されていれば…
外が明るいうちに必ず避難

今いる建物の2階以上または近くの安全な高い建物へ

道路等が浸水し、すでに外が危険な場合

その場に留まり安全確保



避難編 3 気象情報・避難情報を知る

情報を読み取って、避難のタイミングを考えよう

安全に避難するためのタイミング

大雨時には、さまざまな情報が発表されます。最新の気象情報や水位状況に注意し、諫早市からの「呼びかけ避難情報」には速やかに従いましょう。

諫早市からの呼びかけ避難情報

ひなんじゅんび・こうれいしゃとうひなんかいし 避難準備・高齢者等避難開始
避難準備
避難に時間のかかる方は、早めに避難を開始
高齢者・体の不自由な方・小さな子供がいる家庭・妊婦・外国人など

避難勧告
速やかに避難開始!!
浸水しない安全な場所もしくは外が危険な場合は屋内の高いところへ

避難指示(緊急)
ただちに避難開始!!!
緊急避難場所もしくは外が危険な場合は屋内の高いところへ

気象庁からの気象情報

大雨注意報
災害が起こるおそれ
大雨による河川の増水、道路の冠水、家の床下まで浸水するおそれ。最新の気象・避難情報に注意!

大雨警報
重大な災害が起こるおそれ
河川の更なる増水による氾濫、道路の冠水、家の床上まで浸水するおそれ。危険な状況。

特別警報
大災害への最大級の警戒
数十年に一度の大雨が予想され、洪水・土砂など大災害発生のおそれが極めて高い状況。

博士の白い毛がクルクルになっている! もしや…大雨が接近中!?

国土交通省からの河川の水位情報 ❗ 雨が止んだ後も水位は上昇します

危険レベル		
5	氾濫の発生	氾濫
4 危険	氾濫危険水位 家屋浸水や川が氾濫するおそれ	堤防
3 警戒	避難判断水位 避難を開始する目安 本明川(裏山):3.0m 半造川(環津):3.6m	
2 注意	氾濫注意水位 避難を準備する目安 本明川(裏山):2.7m 半造川(環津):3.5m	
1	水防団待機水位 本明川(裏山):1.7m 半造川(環津):2.5m	

マルチーズ博士のわんポイントアドバイス
水位はテレビやインターネットで確認! 河川には絶対に近づかない!

4 安全に避難する

避難の時に気をつけるポイントを知ろう

あわてるでない! 避難する前に最終確認じゃ!

避難の流れをシミュレーション

避難を決めたら、安全に避難しましょう。避難前に火元を必ず確認!洪水が収まった後、自宅の安全が確認できれば自宅に戻りましょう。

避難の判断 → 避難する → 危険がなくなる → 家に被害あり 生活できない → 避難生活 / 家に被害なし → 自宅に戻る

安全に避難して、被害を最小限に抑えよう

避難する直前にやること

1. **電気・ガスを切る**
   - 電気のブレーカーを落とす
   - 火を止め、ガスの元栓を閉める
2. **非常持出袋を持ち出す**
   - すぐに持ち出せるように普段から玄関付近などに配置しよう
3. **避難することを伝える**
   ※あらかじめ避難場所は決めておきましょう。
   - 安否メモを玄関に貼る
   - 災害用伝言ダイヤルや伝言板、SNS等も活用しよう

   ○○小学校に避難します。早子 / 無事だよ! ○○に避難中!
4. **戸締りの確認をする**
   - 玄関と窓の戸締りをして避難(避難まで時間に余裕がある場合)

歩きやすい服装・2人以上で避難する

- リュックサック(両手が使える)
- 棒や傘(冠水時、足元を探る用)
- 運動靴
- 雨具
- ヘルメット
- 長袖と長ズボン

合格 / マルチーズ博士のわんポイントアドバイス 長靴はNG! 水が入ると重くて危険なのじゃ

川や池、山の斜面に近づかない

- 川や池:氾濫する危険
- 山の斜面:土砂災害の危険(崖崩れ・土石流など)

→ 川や池、山の斜面の様子を見に行かない
危険な場所を通らないで避難先まで行ける道順を事前に計画しよう!
(裏表紙「備えておこう」に記入しよう)

避難するタイミングに注意

- 周辺の水位が上がり、水流が速い → 屋外へ逃げるのは危険
- 外が暗く、周辺が見えない → 外が明るいうちに早めの避難

→ 逃げ遅れたら2階以上へ避難! 消防119に電話、救助を待つ

基本的な防災の知識はここまでじゃ! 日頃から備えよう